



# 米子地区本部

第2号

2026年4月25日

発行責任者 青柳 利寿

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



新執行部の挨拶

去る4月4日、岡山国際交流センターにおいて、「国鉄労働組合中国地方本部」の結成大会が開催されました。広島・岡山・米子地方本部が解散・統合することによって新たな中国地方本部が結成されることになりました。広島・岡山・米子地方本部には、JR西日本会社以外にも、貨物会社・JRバス・メンテック・ロジステック等で働く組合員もおられます。お互いに激励しあい、これまでの各地方本部の運動の継承・更なる発展を決意しあつて来りました。

結成大会では、各地方本部から代議員が選出され、9名の代議員より発言がありました。米子選出の代議員の発言を紹介します。

浜田の漆迫代議員より「島根県西部では、大田市・浜田・益田の3駅しか有人駅がない。江津の巡回対応駅は、市議会でも取り上げられている。駅のコンパクト化でホームの椅子が撤去される。お年

寄りには跨線橋に座って待つている。『乗れるものなら乗ってみよう』と言わんばかりだ。統括駅になり、スキヤット会議で広島駅の徒列の解消やウエスタを増やす取り組みをしており、現場の負担となっている。駅の評価にメンタルで休む社員も出ている。工臨の入換・除雪・除草もあり、益田駅に要員1名配置してほしい。津和野でのS

員減の話も出ていて、出雲の岡田代議員からは「木次線運転区、組合員4名で現職1名、将来に不安がある。木次線81キロ区間・オールワンマン、冬季は雪で閉鎖となる。出雲横田から豊後落合の輸送密度は23名で公表さ

## 中国地方本部が結成大会 力を合わせて一歩前へ

最後までも残ってもらいたいとも言われるが、体力の衰えも感じてい

「鳥取の山田代議員からは「特急ワンマンが導入されて1年が経過をしている。ホームに降りてドアスイッチを扱う。車内の状況も分からない。ワンマン区間の拡大が危惧される。ダイヤ改正から227系が導入となる。ツーマン対応が必要ではないか」との意見が出されていました。

役員改選では、米子からは執行委員長に倉下さんが、執行委員に安部さんが、会計監査に渡邊さんがそれぞれ就任されました。

新役員を支える意味でも、米子地区本部として中国地方本部の運動をしっかりと盛り上げていこうではありませんか。

## 次世代に何を語り継ぐのか！

4月25日は、福知山線事故から21年目となりました。事故を知らない世代の社員が多数となる中、事故の教訓の継承が重要な課題となっています。福知山線事故を迎えるにあたって今年も各職場で研修が行われていますが、事故の背景や原因にまで踏み込んだ内容にはなっていないように感じました。また、研修の後に行われる各現場の方針説明では、現場における一年間の安全への取り組みの

振り返りというより、ウエスターの取り組み実績などが強調されているように感じ、正直、違和感を覚えました。

この3月31日には、伯備線備中神代駅構内において、早着した列車にあわや触車という事象も発生しています。一歩間違えば、人命にも関わる危険な事象であったにも関わらず、何ら対策も取られることなく日々の作業が行われるなど、会社の安全管理に首をかしげざるを得ません。

一方、4月7日は、後藤総合車両所内における死亡事故から15年目の日でもありました。当日は、地区本部として車両所内に設けられている献花台に献花を行い、安全な職場づくりを誓って来



後藤総合車両所内の献花台

## 編集後記

春闘の集計が報告されている。賃上げの流れは継続しているが、賃上げ疲れや中東情勢の影響もあるからか伸びについて鈍化を呈していること。春になって、以前から欲しかったものをいくつか購入してみた。買うもの基準は、まずは値段的に、たまたまに高価なものを買うとそのしわ寄せは至る所に！低賃金が骨身にしみ、前日は働く者の団結しかない。

5月24日告示、31日投票の日程で、江津市議会選挙が施行されます。国労議員団からは、現職の植田好雄さんと元職の森川和英さんが立候補を決意されています。

この度の江津市議会選挙では、定数が2名減の14名に対して、既に行われている候補者説明会に17陣営が出席するなど、まさに激戦の様相を呈しています。

地方で顕著に現れている人口減少の問題をはじめ、医療・介護・福祉・教育の貧困、そして、先細る公共交通



挨拶する植田候補

政治を変えよう地方から！！